

《聖書》ヨハネによる福音書 1:1-18

神のことば

ヨハネ福音書の冒頭に使われている
logos は「言」(新共同訳)、「み言葉」
(フランシスコ会訳)、「ことば」(岩波版
新約聖書翻訳委員会訳)と訳され、rema
は「言葉」と訳し分けられています。2
つの語はヘブライ語では **dabar** にあたり
ます。

「初めに」という言葉を最初に使うこ
とによって、ヨハネ福音書記者は創世記
の冒頭に使われている「初めに」という
言葉を意識しています。

創世記において、「神は言われた。『光
あれ』。こうして光があつた」(1:3)
という表現によって、神の創造の業が
語られています。

神のことばは、歴史の中で働く神の
力を意味しています。神は特定の人を
預言者に選んで語りかけ、みことばを伝
える使命を与えます。

ヨハネ福音書記者は、イエスをロゴス
(言、み言葉、ことば)として記述し
ています。イエスこそが神のことばなの
です。イエスは初めから神と共にあり、
神なのです(1:1)。このイエスは神の子
であり、人となられたのです。イエスを見
る人は神を見ているのです。

新約では、預言者をとおしてではなく、
イエスによって直接語られます。「は
っきり言うておく」(新共同訳)、「アー
メン、アーメン、あなた(がた)に言う」
(岩波版新約聖書翻訳委員会訳)(ヨハ
ネ 3:3,5,11、5:19,24,25、6:26,32,47,53、
8:34,58、10:7、12:24、13:16,20,21,38、
14:12、16:20,23)。

イエスは「光」(1:4、8:12)、「生命」
(1:4、6:35,48、11:25、14:6)、「道」(14:6)、
「真理」(14:6)である。

神のことばであるイエスに従い、新
しい掟である「互いに愛し合いなさい」
ということばを守ることが求められてい
ます。

主の降誕の祭日日中 (瀧野正三郎)